

# 酒田市津波



普段の生活の中で、津波で浸水する高さを認識しておきましょう。避難場所や避難経路、緊急連絡先などを確認しておきましょう。

## ハザードマップ

### 津波から身を守る行動パターン



### 防災メモ

家族みんなで避難先や緊急時の連絡先などについて話し合い、ここに書き込みましょう。また、このマップを持って実際に避難先まで歩いてみましょう。避難先までにかかった時間や危険なところなどをチェックし、安全で避難しやすい経路を確認しましょう。

#### ●避難場所

第1候補	第2候補	第3候補
避難場所までの危険箇所	避難場所までの危険箇所	避難場所までの危険箇所
( )が	( )が	( )が
歩いて避難した場合にかかった時間 分	歩いて避難した場合にかかった時間 分	歩いて避難した場合にかかった時間 分

#### ●家族の連絡先

名前	生年月日	血液型	会社や学校の連絡先	携帯電話番号

#### ●インターネットによる防災情報の入手先

酒田市の災害・防災情報は、インターネットなどからも確認することができます。自ら情報を収集し、危険を感じたときには自動的に避難してください。

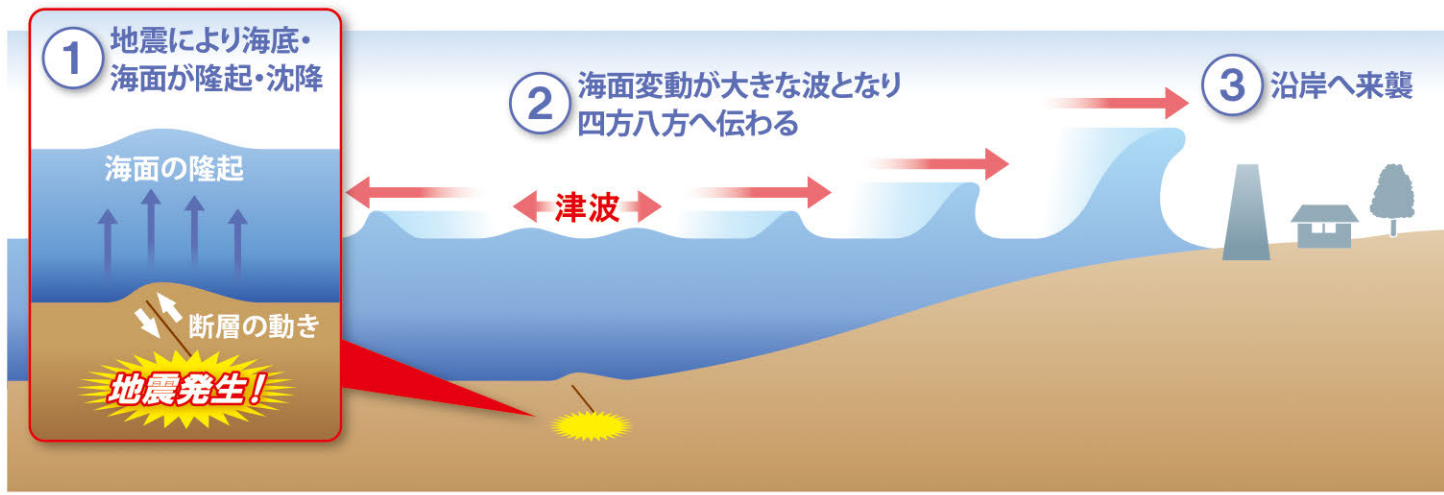
国土交通省 防災情報提供センター https://www.nlit.go.jp/saigai/bosaijoho/	酒田市 http://www.city.sakata.lg.jp/smph/index.html
国土交通省 ハザードマップポータルサイト https://disaportal.gsi.go.jp/	気象庁 https://www.jma.go.jp/jma/index.html

酒田市では、このマップとは別に、洪水ハザードマップを作成しています。洪水に関する情報については、洪水ハザードマップを確認してください。

## 津波が発生するしくみ

### 津波の起こり方

海底下で大きな地震が発生すると、断層運動により海底が隆起もしくは沈降します。これに伴って海面が変動し、大きな波となって四方八方に伝わるものが津波です。津波は、沖合いではジェット機に匹敵する速さで、海岸近くでもオリンピックの短距離選手並みの速さで伝わります。津波がやってくるのを見てから避難を始めたのでは間に合いませんので、地震の揺れを感じたら、または津波警報が発表されたら、実際に津波が見えなくても直ちに避難しましょう。



酒田市の過去の津波災害について		
発生日月	地震名	津波高
850年10月	嘉祥地震	河川を遡上した津波が現在の城輪橋付近まで迫ったという伝承がある。
1833年12月7日	庄内沖地震	湯野浜から府屋間まで5〜6m、局部的に7〜8mの津波が押し寄せた。
1964年6月16日	新潟地震	酒田で71cm(検潮記録による高さ)、飛鳥で52cm(実測)の津波が押し寄せた。
1983年5月26日	日本海中部地震	山形県内に1.08m〜2.64m(現地調査による高さ)の津波が押し寄せた。
1993年7月12日	北海道南西沖地震	山形県内に0.73m〜1.83mの津波(痕跡高)の津波が押し寄せた。
2019年6月18日	山形県沖地震	酒田市で5cm、鶴岡市鼠ヶ関で11cm(いずれも実測)の津波が観測された。

## 津波に関する情報

### 大津波警報、津波警報、津波注意報

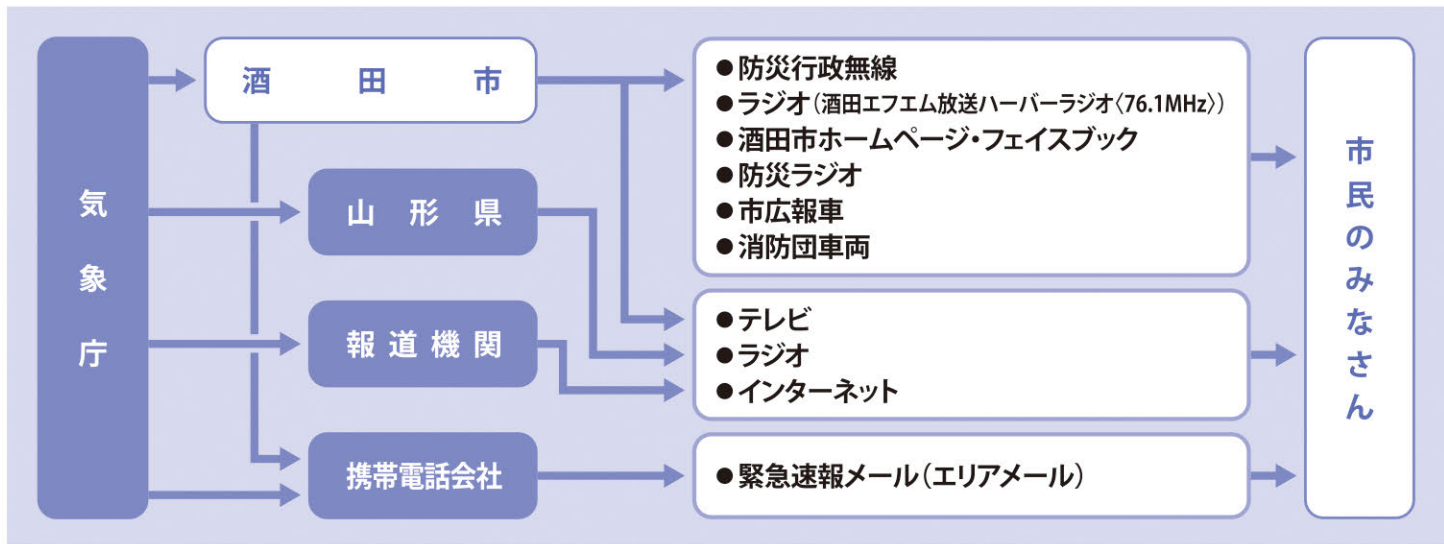
地震発生後、津波による災害の発生が予想される場合には、気象庁より「大津波警報」「津波警報」「津波注意報」が発表されます。大津波警報や津波警報のときは、すぐに以下のような行動をとります。

種類	予想される津波の高さ	とるべき行動	想定される被害
大津波警報 (特別警報に位置付け)	10m超 (10m<予想高さ)	沿岸部や川沿いにいる人は、ただちに高台など安全な場所へ避難してください。津波は繰り返し襲ってくるので、津波警報が解除されるまで安全な場所への避難を続けてください。	●木造家屋が全壊・流失します。 ●人は津波による流れに巻き込まれます。
	10m (5m<予想高さ≤10m)		
5m (3m<予想高さ≤5m)			
津波警報	3m (1m<予想高さ≤3m)	高い	●標高の低いところでは津波による浸水被害が発生します。 ●人は津波による流れに巻き込まれます。
津波注意報	1m (0.2m≤予想高さ≤1m)	(表記しない)	●海の中では人は速い流れに巻き込まれます。 ●乗艇いかがが流失し、小型船舶が転覆します。

- 震源が陸地に近いと津波警報が間に合わないことがあります。「揺れたら避難」を徹底しましょう。
- 津波は沿岸の地形などの影響により局所的に予想より高くなる場合があります。より高い場所を目指して避難しましょう。
- 地震発生後、予想される津波の高さが20cm未満で被害の心配がない場合、または津波注意報の解除後も海面変動が継続する場合には、「津波予報(若干の海面変動)」が発表されます。

### 情報の伝達経路

酒田市や気象庁等の公共機関から、津波警報等の避難に関する情報が発信されます。最新かつ正確な情報を入力し、安全に避難しましょう。



## 日本海側の津波の特徴

### 身を守るために知っておきましょう

地震・津波はいつ、どこで発生するかわかりません。津波が到達するおそれがある場所にいるときは、できるだけ早く、高いところに逃げる必要があります。津波の特徴を知っておきましょう。

#### 津波

堤防・防潮堤

#### 波浪

堤防・防潮堤

#### 恐るべき津波の破壊力

- 普通の波(波浪)と違い、津波は海底地盤の上下による海水全体の動きのため、海底から海面までのすべての海水が巨大な水の塊となって沿岸に押し寄せ、その破壊力は凄まじいものとなります。
- 引き波も長時間にわたり引き続けるために、家屋などが一気に海中へと引き込まれてしまいます。

#### 高い津波がすぐに襲来する

- 震源が沿岸に近いため、太平洋側よりも速く津波が到達します。
- 震源が浅く、断層が高角であるため、持ち上がる海水の面積が大きくなり、地震の規模に比べて津波が高くなります。

#### 津波が繰り返し、収まりにくい

- 津波は繰り返し襲ってきます。また、最初に到達する波が最も大きいとは限りません。
- 津波が引いても、津波警報が解除されるまで安全な場所から離れないでください。
- 津波が日本列島と大陸で反射するため、何度も繰り返し襲来します。

#### 津波は河川を遡上する

- 津波は河口から侵入し、何キロメートルも上流に遡上(逆流)することがあります。
- 遡上した津波が、河川堤防を越え川川地域に大きな被害をもたらすことがあります。

#### 水深が浅くても危険

- 水中では歩行速度が低下するため、少しの浸水でも避難の妨げになってしまいます。
- 津波は勢いのある水が押し寄せてくるため、深さ15cmでも足元をすくわれてしまう可能性があります。

#### 引き波があるとは限らない

- 津波は引き波から始まるとは限りません。
- よく、津波の前には引き波があると言われていますが、地震の種類や震源付近の地形などの影響によっては、いきなり津波が襲ってくる場合があります。

## 災害への備え

### 日頃の心得

避難場所の確認や浸水地域の把握など、日頃から備えておきましょう。また、家族と避難場所や連絡方法を確認しておくことが大切です。

#### 家族会議を開こう

津波が発生したとき、どこに避難し、どのようにして連絡を取り合うのか、家族で事前に話し合しましょう。

#### 避難訓練に参加しましょう

避難路の安全性の確認のために、地域の避難訓練に参加しましょう。避難行動要支援者への支援方法についても、話し合うといいでしょう。

#### 避難場所や避難路を確認しておきましょう

本冊子掲載の津波ハザードマップをもとに、自分の地域の避難場所や避難ルートを確認しておきましょう。

#### 一人暮らしのお年寄りなどには気配りを

自分の家族だけでなく、地域全体に目を向けましょう。特に、一人暮らしのお年寄りや子供、病気の方など避難行動要支援者の方々には、普段から気配りが必要です。

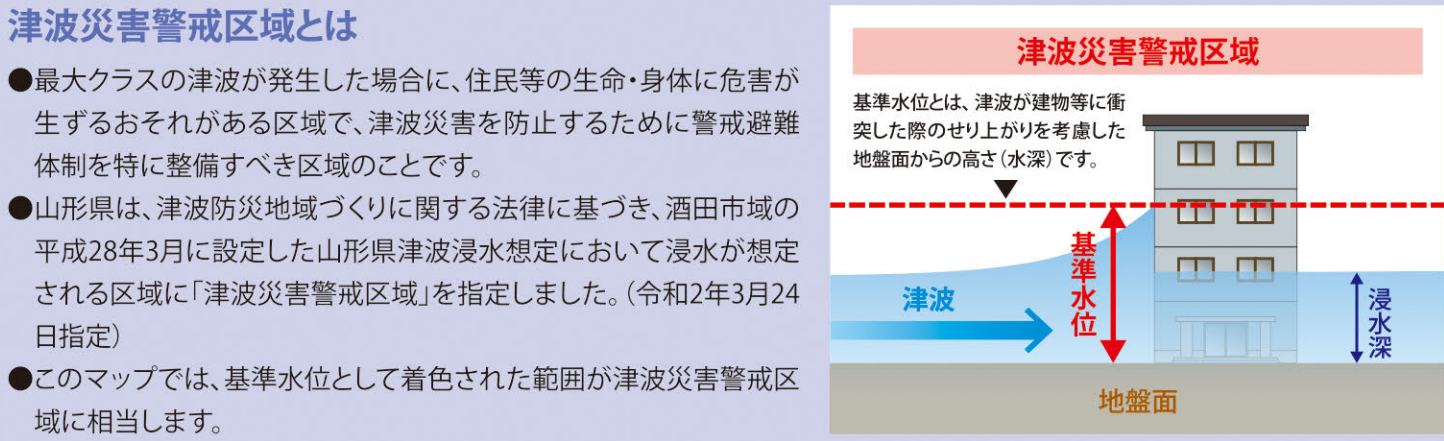
### 非常持ち出し品

避難が必要になった場合に備えて、非常持ち出し品を準備しましょう。リュックサックなどにまとめて、いつでも持ち出せる場所に保管しておくといいでしょう。

食料	救急・安全対策	貴重品
<input type="checkbox"/> 飲料水(1人1日2〜3リットルを目安) <input type="checkbox"/> 非常食(缶詰、乾パン、レトルト食品など) <input type="checkbox"/> 携帯食(チョコレート、キャンディーなど) <input type="checkbox"/> 粉ミルクと哺乳瓶(赤ちゃんがいる場合)	<input type="checkbox"/> 常備薬(胃腸薬、かぜ薬など) <input type="checkbox"/> 包帯、ガーゼ、ばんそうこう <input type="checkbox"/> 傷薬、消毒薬 <input type="checkbox"/> 持病のある方の薬 <input type="checkbox"/> ヘルメット、防災ずきん <input type="checkbox"/> ホイッスル	<input type="checkbox"/> 現金(小銭も必要) <input type="checkbox"/> 預貯金通帳、印鑑 <input type="checkbox"/> クレジットカード類 <input type="checkbox"/> 健康保険証 <input type="checkbox"/> 免許証など(身分を証明するもの)
衣類など	日用品など	
<input type="checkbox"/> 衣類(厚手の物と薄い物) <input type="checkbox"/> 下着類 <input type="checkbox"/> タオル、毛布 <input type="checkbox"/> 手袋、軍手 <input type="checkbox"/> 雨具	<input type="checkbox"/> ボリ袋(ビニール袋) <input type="checkbox"/> 新聞紙 <input type="checkbox"/> ろうそく、ライター <input type="checkbox"/> ナイフ、缶切り <input type="checkbox"/> ティッシュペーパー <input type="checkbox"/> ウエットティッシュ <input type="checkbox"/> 懐中電灯(予備電池) <input type="checkbox"/> 携帯ラジオ(予備電池)	<input type="checkbox"/> 携帯電話(充電器・バッテリー) <input type="checkbox"/> 布ガムテープ <input type="checkbox"/> ロープ <input type="checkbox"/> 洗面用具 <input type="checkbox"/> メガネ <input type="checkbox"/> マスク <input type="checkbox"/> 使い捨てカイロ <input type="checkbox"/> 生理用品

## 浸水深と基準水位

平成29年3月発行の酒田市津波ハザードマップで表示している浸水深は、「山形県津波浸水想定区域(平成28年3月)」に基づき、陸上の各地点で水面が最も高い位置に来た時の地面から水面までの高さ(水深)を示していました。本冊子で表示している「基準水位」は、令和2年3月に津波災害警戒区域の指定と共に山形県が公表したもので、津波浸水想定の高さ(水深)に、津波が建物等に衝突した際のせり上がりの高さを加えた水深を示しています。



### 津波災害警戒区域とは

- 最大クラスの津波が発生した場合に、住民等の生命・身体に危害が生ずるおそれがある区域で、津波災害を防止するために警戒避難体制を特に整備すべき区域のことです。
- 山形県は、津波防災地域づくりに関する法律に基づき、酒田市の平成28年3月に設定した山形県津波浸水想定において浸水が想定される区域に「津波災害警戒区域」を指定しました。(令和2年3月24日指定)
- このマップでは、基準水位として着色された範囲が津波災害警戒区域に相当します。

### 津波災害警戒区域の指定の目的

- 区域指定により、区域内の避難促進施設(市が指定する社会福祉施設、学校、医療施設など)では、避難確保計画の作成等が義務付けられるなど、津波に対する避難体制がより強化されます。
- 区域指定と併せて公表する「基準水位」により、津波から避難する上での有効な高さを想定でき、より実効性の高い避難対策が可能となります。

## 緊急地震速報を見聞きしたら

緊急地震速報とは、地震の発生直後に、各地での強い揺れの到達時刻や震度を予想し、可能な限り早く知らせる情報のことです。テレビ、ラジオ、防災行政無線、携帯電話、施設の館内放送、受信端末等で入手することができます。緊急地震速報の発表後、数秒〜数十秒後に強い揺れが始まりますので、この間に身を守るための行動をとってください。ただし、震源域に近い地域では、緊急地震速報が強い揺れに間に合わないことがあります。

#### 屋内では…

- 頭を保護し、丈夫な机の下などに隠れる。
- あわてて外へ飛び出さない。

#### 山やけけ付近では…

- 落石やけけ崩れに注意する。

#### 屋外では…

- ブロック塀等の倒壊に注意する。
- 看板や割れたガラスの落下に注意し、建物のそばから離れる。

#### 人が大勢いる施設では…

- 係員の指示に従う。
- 落ち着いて行動する。
- あわてて出口に走り出さない。

#### 車の運転中は…

- あわててブレーキをかけない。
- ハザードランプを点灯し、路肩に寄せてゆっくり停止する。

#### エレベーターでは…

- 全ての階のボタンを押して、停止した階で、すぐに降りる。

## 津波からの避難

### 地震の揺れがおさまったらすぐに避難

揺れがおさまったら、津波警報や津波注意報の発表を待たずに、ただちに安全な高台へ避難しましょう。揺れと同時に津波が襲する場合もあるため、沿岸にいる場合はすぐに避難してください。また、津波からの避難は一刻を争うため、情報を待っていると逃げ遅れる場合があります。情報の収集は安全な場所へ移動してから行ってください。

#### 津波避難の心得

#### 小さな揺れでも油断禁物

たとえ小さな地震でも、津波が発生する危険性があります。

#### 正しい情報を聞く

ラジオ・防災行政無線などで、正しい情報を聞きましょう。

#### より高い場所へ避難する

海岸から「より速く」ではなく、「より高い」場所へ避難しましょう。

#### 車での避難は控える

車は約30cmの浸水で走行困難になります。車での避難は控えましょう。

**津波は繰り返し襲ってくるので、警報・注意報が解除されるまでは絶対に海岸に近づかないでください。**

### 災害時の連絡方法

地震や津波などの大災害発生時は、電話利用が急激に増加し、電話がつながりにくい状況が続くことがあります。このような場合は、以下のサービスが開発されます。

災害用伝言ダイヤル	伝言の録音方法	伝言の再生方法
このサービスは、大規模な災害が発生した場合、「声」の伝言板(安否情報)の役割をする電話サービスです。被災地内とその他の地域の人々との間などで、伝言の登録・再生をすることができます。(体験利用日) ●毎月15日・19日 ●毎月3日 ●防災週間(8月30日9:00〜9月5日17:00) ●防災ボランティア週間(1月15日9:00〜1月21日17:00)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 7 1 をダイヤル</li> <li>1 を押す</li> <li>被災地の方の電話番号を「市外局番」からダイヤルしてください</li> <li>伝言を録音する</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 7 1 をダイヤル</li> <li>2 を押す</li> <li>伝言を再生する</li> </ol>

災害用伝言板(web171) <https://www.web171.jp/> ←記URLへアクセスし、案内に従って操作してください

スマートフォン・携帯電話・PC等から災害用伝言板(web171)にアクセスすることで、テキストによる安否情報(伝言)の登録・確認を行うことができます。\*体験利用日は、災害用伝言ダイヤルと同様です。

※上記の他に携帯電話各社から「災害用伝言板サービス」が提供されます。利用方法については各社ホームページ等で確認ください。